

べんり しきすいみんほう 便利なイルカ式睡眠法

イルカは、どことなく愛嬌あいきょうがあって、飼育係しいくがかりがさしだす餌えさにジャンプ
いちばんと ことば も い うみ なか す
一番飛びついたり、言葉ことばを持っているらしいと言われていたり、海うみの中に住ん
でいるわりには、けっこう親しみしたを感じかんさせる生き物いものだ。

いがい し めん も
けれども、意外いがいに知られていない面めんを持っている。

ねむ ひと なぞ
イルカはどうやって眠ねむるのか、というのもその一つで、ずっと謎なぞだった。

うみ なか せいかつ しゅうち とお ほにゆうい はいこきゅう
海うみの中で生活せいかつしてはいるが、周知しゅうちの通りイルカは哺乳類と。肺呼吸ほにゆういをして
いるわけだから、何分なんぶんかおきには海面かいめんに顔かおを出だして、呼吸こきゅうをしないと溺おぼれ
てしまう。ふだんは時々ときどき浮かあび上あがればよいのだが、眠ねむっているときはどう
するのだろう。こっくりこっくり居眠りいねむしているうちに、溺おぼれ死しんでしまっ
たイルカみは見たことがない。

ねむ きょうみ も
というわけで、イルカはいかにして眠ねむるのか、興味きょうみが持たれていたのだが、

そと かんさつ ねむ
外そとから観かん察さつしただけでは、いつ眠ねむっているのかわからなかった。

どうぶつしん か けいたいがく せいたいがく けんきゅうじょ
そこで、ソビエトの動物進化形態学どうぶつしん・生態学か研究所けいたいがくのアレクサンド

はかせ のう でんきよく こ のうは むせん じゅしん
ル・スーピン博士はかせは、イルカの脳のうに電極でんきよくを植こえ込み、脳波のうはを無線むせんで受信じゅしんす
ることで、イルカが、いつ、どうやって眠ねむっているのかを調しらべてみた。

いがい じじつ はっけん
すると意外な事実を発見された。

のう さゆう はんきゅう こうご すいみん
なんと、イルカは脳の左右の半球を交互に睡眠させていたのである。

いっぽう はんきゅう ねむ ほか はんきゅう めざ こうご く
一方の半球が眠っているとき、他の半球は目覚めていて、これを交互に繰
かえ
り返していたのだ。

すいみんちゅう すうぶん かいめん かお だ こきゅう
なるほど、これなら、睡眠中にも数分おきに海面へ顔を出して、呼吸で

おぼ し しんばい
きるから、溺れ死ぬ心配はなくなるわけだ。

じつ べんり すいみんほう
いや、実に、なんとも便利な睡眠法があったものである。

いそが げんだいじん ねむ
忙しい現代人のなかには、眠らなくてすむようになったらどんなにいい

かんが ひと しきすいみんほう
だろうと考 えている人もいるだろうけれど、このイルカ式睡眠法なら、そ

ゆめ ごぜんちゅう のう うはんきゅう ねむ
んな夢もかなうかもしれない。午前中は脳の右半球を眠らせておいて、

ごご さはんきゅう ねむ ぐあい
午後は左半球を眠らせる、といった具合にやればよいわけだ。

はかせ おも のう おうよう あたら
スーピン博士も、そう思ったのかどうか、この脳のモデルを応用して、新

すいみんやく かいはつ けんきゅう すす
しい睡眠薬の開発などができるかもしれないと、さらに研究を進めている。

さいきん にんげん だいのう さゆうりょうはんきゅう こと せいしつ きのう も
最近、人間の脳の左右両半球がそれぞれ異なる性質や機能を持

けんきゅう すす じょうず つか わ かた
っていることについての研究が進んでいるから、上手な使い分け方などと

かいはつ
いうのも開発されるかもしれない。

それにしてもまだまだ、人間の^{にんげん}脳^{だいのう}には未知^{みち}のことが^{おお}多い。おそらく、^{のう}脳^{のう}
こそは、21世紀^{せい}に^の残^こされた、地球^{ちきゅう}上^{じょう}最後^{さいご}のフロンティアであろう。

^{おおみやのぶみつ} 大宮信光 ^{ほかちよ} 他著『サイエンス・スクランブル』^{しんちょうしゃ} 新潮社より)